

アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議委員

西村 幸夫 (國學院大學観光まちづくり学部長・教授)

建畠 哲 (京都芸術センター館長)

菅谷 富夫 (大阪中之島美術館館長)

松岡 恭子 (㈱大央代表取締役社長、スピングラス・アーキテクト代表取締役)

河野 まゆ子 (㈱JTB総合研究所 執行役員 地域交流共創部長) (敬称略、順不同)

「第4回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 拡充先における施設整備について

- ・既存構造物を活用した美術館というユニークさも踏まえ、防災面に配慮しながら、アートと公園、地下の美術館を結びつけていくことは、このプロジェクトの大事な意義の一つであり、前向きに取り組んでほしい。
- ・市外からの来訪者は拡充先と大濠公園エリアの美術館を巡ると思われるため、双方で連携を図った方がよい。また、多くの人が双方を移動する動線としては、国体道路の方も軸になってくると思うので、その動きも考えておいた方がよい。
- ・敷地が大通りに面していないため、他の景観に干渉されず、美術館が意図した独自の空間づくりを表現しやすいというメリットである一方で、大通りからの誘導については、ハードとソフトの両面で人を呼び込む仕掛けを検討する必要がある。

■ 管理運営の基本的な考え方

- ・アジア美術館においては、アジアの作品や諸地域・作家との交流が非常に重要であり、地域や人との関係性を含めや継続的な蓄積が求められることから、短期間雇用ではない正規職員の確保が必要。
- ・市民が勤務後に来館しやすい立地のため、美術館にとって夜間は重要なコアタイムと言え、夜間の運営手法については必須の要素として検討するべき。
- ・美術館としての公共性や信頼性の観点から、美術品の販売については、展示室内はもとより、館内では行わない方がよい。
- ・にぎわい・集客に関する運営は、行政の発想だけでは限界があり、長期的な視点を持って民間の知恵を導入した方がよい。また、民間の力を活用してマーケティングや情報発信を強化していくためには、市場やまちとのコミュニケーターが必要であり、行政と民間の役割分担を早い段階で整理することが望ましい。
- ・美術館としての防災、防犯面の検討に加え、プラスアルファとして、警備の観点から、VIP対応も可能な動線計画や付帯設備等も検討すると強みになる。

■ 美術館の事業手法、公園の活用手法について

- ・この場所にふさわしい、公園と美術館の関係等を柔軟に検討の上、新しいチャレンジができるような事業手法を検討してほしい。
- ・公園内の地下駐車場を美術館へ転用するという今回の事業は、建築と土木と公園を一体的に設計する必要があり、あわせて、その先進性を打ち出せるような事業の枠組みとすることが望ましい。
- ・地下構造物であるという特性上、構造物の強度や防水性、止水性等について様々な調査や検討が必要となるため、民間事業者任せきりでなく、福岡市が継続的に関与していくことが重要。
- ・美術館の上が公園であることから、美術館と公園は切り離さず、一体に活用する仕組みが望ましい。そのためには、柔軟な運用に向けて様々な観点から検討や議論が重要。
- ・事業手法にかかわらず、施設整備の段階において美術館特有の要求を細部まで規定しやすいことが重要な条件だと思う。
- ・運営まで含めた公募となると、運営ができる会社の奪い合いになってしまう可能性があり、少なくとも運営は切り離しておかないと、多くの建築家が応募できないと思う。
- ・このプロジェクトは、美術館のデザインだけでなく、公園やまちとの結節というコンセプトの具現化が重要なため、表面的なデザイン提案と解釈されない設計要項とするべき。
- ・設計者の選定は、キャリア等にとらわれず、面白いアイデアのある人や海外での経験がある人等、様々な人たちが幅広くアイデアを出せる場にしてほしいと思う。
- ・建築だけでなく造園や土木の分野にも関わり、設計の中で行政と詰めていく必要があるプロジェクトなので、提案競技の段階では、応募者に細かい設計図等を求めるのではなく、考え方を評価できるような方法で進められるとよい。